

総括

タケイ キョウゾウ
武井 協三

皆さん、だいぶお疲れになったと思います。総括は本来、国際日本文学研究集会の委員長である村尾先生がなさるお役なのですが、事情により今日のご欠席のため、私はピンチヒッターです。村尾先生の御総括はひとつひとつの研究発表について少しずつコメントをするというかたちでしたが、私はそういうかたちはとらず、他のことを申し上げます。ピンチヒッターのしゃべくりは何を言ってもいいということになっておりますので、好きなことを少し話させていただきます。

私事なんですけれども、私は国文学研究資料館に来て約二十五年になります。最初の十年くらい、この国際日本文学研究集会の係を務めました。こんなに長く国際集会の係をやったのは私だけです。昔のことを思い出しながら昨日と今日は研究発表を聞いておりました。私が係をやり始めた頃の発表者は、それぞれの国にお帰りになって、そこの国の日本文学研究の指導者になっておられます。その典型が本日ご講演になった崔先生です。

その当時はまだメールというような便利なものはございませんで、外国に連絡するときは、国際ファックスとか、国際電話とか。それもそういうものを使うときには、ちゃんと書類を書いて、申請書を出して、というような状況でした。今とは隔世の感があります。

当時は応募者が十人ちょっとくらいでした。現在の半分以下です。「テーマを決めてしまうと応募者が減るんじゃないか」ということで、テーマなんかも決めないでやっておりました。それがだんだん、テーマを決めて発表していただくという状況になってきました。この集会が知られるようになった、定着してきたということだと思います。

本日、研究発表を聞かせていただいて、その当時と比べますと、大きな違いは、皆さん非常に日本語がうまくなっている。見事に、流暢な日本語でお話になっているなあと感じました。研究発表の内容も、昔よりもレベルが向上してきているというのは、常々感じているところです。

こういう風にレベルがだんだん高くなってきたというのは、もちろん今の若い研究者の方々が一生懸命勉強するからだと思えますけれども、その以前に、若い方の先輩・先生方が、今よりももっと状況の悪い、留学するにしても半年ぐらいしかできないとか、資料を日本語で読む環境が整っていないとか、そういう時期を過ごされてこそ、今の若い人たちの、特に外国人の研究者の方々の現在のレベルがあるのだと思っています。ですから、若い人たちは先輩が道を切り拓いてくれたのだということは常に頭においていただきたいと思えます。

ただ、昨日今日とずっと聞いておまして、多少苦言を呈しますと、皆さん大体においてプレゼンテーションの方法というものに対する意識が弱い。最後の崔先生、それから赤澤さんの御発表はパワーポイントを使って、大変わかりやすくやっておられた。せめてそういう努力は皆さんしていただきたいと思えます。

もちろん、研究発表の内容によってはパワポを使わないのがいいものもありますけれども、あらゆる手を尽くして自分の話すことを人に分かってもらおうという努力はしていただきたい。壇上へ出て、ずうっと原稿を読むという発表が大変多かった。原稿を読んでいて、ちっとも客の方を見ない。お客さんの方を少しだけでも見ると、話し方が変わってきます。そして、その人たちに分かってもらおうという意識が出てきます。研究発表をするときは、そういうことも少し考えていただきたいと思えます。

本日、それから昨日、ショートセッション・ポスターセッションを入れて、大変盛り沢山の発表でした。我々の方ではちょっと盛りだくさんすぎたなあと反省を口にしないでおります。もう少し休憩時間なんかをたっぷりとして、そこで研究発表者を囲んで、いろんな批判もあれば論争もあるというような時

間を取った方がいいだろうといったことも考えています。

そういう反省を生かして、来年も国際日本文学研究集会、これはまだ確定ではありませんけれども、11月17、18日に開催することになります。

テーマは「再生と文学—日本文学は何を発信できるのか—」というようなテーマが今考えられております。これは皆さんすぐお気づきになりますように、震災と関連のある研究発表を、ということも意識してのテーマです。ただ、もちろん震災に限ることではありません。文学というものは死と再生というものを表現するんだというような考え方もありますから、震災と必ずしも関連していなければいけないということではありませんけれど、未曾有の大震災が起って、我々は無力感を感じたりしているわけです。ですから、そういうことをテーマにおくことも一つの意味があると思っています。

昨日今日と大変ご苦勞様でございました。来年もまた立川の地で皆さんにお目にかかることを期待しております。どうもありがとうございました。